

令和4年度 第74回 卒業式 式辞

本日ここに、PTA会長 富樫和幸様、教育後援会会長 長谷川憲治様、駒草同窓会会長 片桐道子様をはじめ、PTAや富澤学園関係の皆様をご来賓に迎え、第74回東北文教大学山形城北高等学校卒業証書授与式をこのように盛大に挙行できますこと、卒業生とともに職員一同、厚く御礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました279名の皆さん、ご卒業おめでとう。

そして、保護者の皆様、本日はお子様の立派に成長された晴れ姿に、感慨ひとしおのことと存じます。この3年間はコロナ禍にあって、学校行事や各種大会・コンクールなど、お子様の成長した姿を確かめる機会が奪われてしまいました。特に、親元を離れて過ごすご家庭にあっては、1年生の頃は会いたくても会えない日々が続き、その心中はいかばかりだったかと拝察いたします。しかし、そんな中にあって、優しい眼差しを持って子どもの悩みや喜びに共感し、本校教育に対しましても温かいご支援とご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

振り返れば3年前の4月8日、村山地区では本校だけでしたが何とか入学式を挙行し、次の日から学校は休校になりました。授業再開は幾度となく延期を強いられ、5月の連休明けから分散登校を行い、6月になってようやく全校生が学校に戻ってきました。とはいっても、「新しい生活様式」が求められる中、人と人の距離は保たれ、いつの間にかそれが本当の壁になるのではないかと不安を抱きました。

私は、高校生年代というのは、様々な経験を通して成長していく時期だと考えています。それは、昨夏甲子園で優勝した仙台育英高校野球部監督が述べた「青春は密である」という言葉そのものです。しかしながら、コロナで亡くなった日本人は6万人を優に超え、東日本大震災での死亡者数が行方不明を合わせて約19,000人ですから、その3倍以上にもなります。感染症は学校など集団で活動する場を起点として拡大することが多く、無条件に「青春」を優先させてあげることもできず、悩みに悩んだ3年間でした。

それでも、高校生の一日と大人の日とでは貴重さという点では異なるものだと考え、できるだけ学びの機会を保障してきました。やまぎん県民ホールを借りて行うようになった城北祭、そしてそこのサプライズゲストによる公演は、コロナの副産物とも言えます。しかし、一つだけ心残りは、修学旅行を実施できなかったことです。行先を変えたりすることも考えはしましたが、修学旅行はみんなで行くことに意義があると考え、行ける人と行けない人が出てしまう選択はしませんでした。それが正しかったのかどうかは分かりません。願わくは、どんな時でも心の窓から外の世界を見ることを怠らず、ポストコロナにおいては自分の五感で感じる旅に出てほしいと切に願います。

さて、私が本校の校長に着任したのは皆さんが入学する1週間前のことです。皆さんとともにここでコロナ禍を過ごしたことになります。こうやって対面で話をする機会はクラスマッチや城北祭に限られ、ほとんどは放送によるものでした。一昨年の夏、教室にプロジェクターが設置され、それからは映像付きになったこともあってか、廊下などですれ違うとよく声をかけてもらえるようになりました。オンライン集会では、あいみょんの『マリーゴールド』の話に始まり、カタルワールドカップで活躍した浅野選手の作文まで、実に様々な話をしました。そして、今日これが最後になります。

今、天国にいる人で逢いたいと思う人はいますか。話したいと思う人は誰ですか。

私は亡くなった両親の他に、もう一人声を聴きたいと思う人がいます。それは、歌手の本田美奈子さんです。1980年代はアイドル歌手として、90年代以降はミュージカル女優として活躍したアーティストで、保護者の皆さんはよくご存じでしょう。私は彼女の大ファンでした。新人ながら日本武道館コンサートを成功させ、その後秋元康氏が作詞を手掛けた『1986年のマリリン』は大ヒットしました。

1990年にミュージカル『ミスサイゴン』のオーディションを受け、15,000人の中からヒロイン役に選ばれたのを機に、その後は『屋根の上のバイオリン弾き』や『王様と私』など数々のミュージカルに出演しました。『レ・ミゼラブル』ではエ

ポニーヌ役を演じ、帝国劇場で聴いた彼女の歌う『On My Own』に、魂が揺さぶられるほど感動したことを今でも鮮明に覚えています。華奢な身体とはいえ、想像もつかないほどの声量と透き通るような歌声に圧倒されました。

実力派女優として地位を揺るぎないものにしていた2005年1月、彼女は急性骨髄性白血病と診断を受け緊急入院します。白血病の中でも極めて稀な予後不良の病で、骨髄バンクでドナーが見つかるまでの猶予すらない病状だったようです。そして、闘病の甲斐なく入院から10ヶ月後の11月6日、38歳という若さで旅立ちました。ちなみに、それを機に私はドナー登録をしましたが、一度もコーディネートの対象になることはなく、規定により55歳で登録満了になりました。

本田美奈子さんは38歳を迎える誕生日の前日、一時退院を許されたのですが、彼女はナースステーションの所まで来ると、やせ細った身体で背筋を伸ばし、アカペラで『アメイジング・グレイス』を歌い始めました。居合わせた医師や看護師たちは驚き、そして彼女の歌声に聴き入りながら号泣したと言います。彼女自身も涙を浮かべながら歌った『アメイジング・グレイス』は、結果として人前で披露する最期の歌になってしまいました。今であれば、スマートフォンで映像付きの歌声が記録されるのですが、当時の携帯電話はそれができず、頭にバンダナを巻いた彼女の写真だけが遺されています。

『アメイジング・グレイス』については、皆さんは何度も耳にしたことがあるでしょう。アメリカ合衆国では「第二の国歌」とまで言われ、日本でも映画やドラマ、CMなどで多用され、讃美歌の中では最もよく知られた曲です。作詞を手掛けた英国人の John Newton は、元は黒人奴隷貿易によって財を成した商人でした。当時、奴隷に対する扱いはひどく、死に至らしめるなど想像を絶するものがあったわけですが、ある日、彼の船が沈没の危機に瀕します。救いを求めて心から深く祈りを捧げたところ、船は運良く沈没を免れ生き延びることになります。そして、彼はこの日を境に奴隷船を降りることを決意し、蓄えた財産から多額の献金を行い、自分の経験を伝える牧師へと転身したと言われています。つまり、『アメイジング・グレイス』は自分の罪を償い、感謝の気持ちを表現した曲なのです。

10月の後期始業式で、アドラーの「幸せを感じる3条件」について話をしました。

- ① 自己受容（100点でなくても、ありのままの自分に OK を出すこと）
- ② 他者信頼（自分だけではなく、他の人にも OK を出せること）
- ③ 他者貢献（誰かの役に立っていると、自分の価値を実感すること）

この3つです。

本田美奈子さんは、一時退院の日、自分にできる精一杯のこと、すなわち『アメイジング・グレイス』にありったけの感謝の気持ちを込めながら、最期まで力を尽くして歌い、それによって改めて自身の存在価値を確認し、束の間の幸せを感じたに違いありません。

卒業生の皆さん、毎日のお弁当や雨の日の送迎など、君たちのあらゆる日常に家族の愛情が込められていたことを忘れないでください。勤務時間が過ぎても続く熱心な指導や土日の部活動など、先生方の情熱も決して忘れないでください。そして、これからは新しい出会いの中で、誰かを愛したり、手を差し伸べたりしながら、「敬愛信」の精神を忘れず真っすぐに生きてください。生きるということは、ただそれだけで価値があるということも、生涯忘れずにいてください。

一生終えてのちに残るのは、
われわれが集めたものではなくて、
われわれが与えたものである。

生誕100年を迎えた三浦綾子さんの小説『続 氷点』の一節を卒業の餞に贈り、式辞とします。

令和5年3月1日

東北文教大学山形城北高等学校 校長 大沼 敏美